

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 7 部門第 4 区分  
 【発行日】平成 19 年 8 月 2 日 (2007.8.2)

【公開番号】特開 2006-238635 (P2006-238635A)  
 【公開日】平成 18 年 9 月 7 日 (2006.9.7)  
 【年通号数】公開・登録公報 2006-035  
 【出願番号】特願 2005-50781 (P2005-50781)  
 【国際特許分類】

**H 0 2 M 1/00 (2007.01)**  
**H 0 2 M 1/08 (2006.01)**  
**H 0 3 K 17/08 (2006.01)**  
**H 0 3 K 17/64 (2006.01)**  
**H 0 3 K 17/56 (2006.01)**

【F I】

H 0 2 M 1/00 L  
 H 0 2 M 1/08 A  
 H 0 3 K 17/08 Z  
 H 0 3 K 17/64  
 H 0 3 K 17/56 Z

【手続補正書】  
 【提出日】平成 19 年 6 月 20 日 (2007.6.20)  
 【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0 0 2 0  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【0 0 2 0】

次いで、I P M 3 - 1 , 3 - 2 ( 総称して、符号 3 を付す。また、インターフェース回路 2 - 1 , 2 - 2 についても総称して符号 2 を付す。 ) の構成及び動作について以下に説明するが、これら 2 個の I P M 3 - 1 , 3 - 2 は互いに同様に構成されるために、区別して説明する必要があるエラー信号通信回路 1 6 - 1 , 1 6 - 2、I G B T T R 1 , T R 2 及び還流ダイオード D i 1 , D i 2 を除いた各構成要素の回路に対して同一の符号を付し、主として 1 つの I P M 3 の構成及び動作について説明する。図 1 において、各 I P M 3 は、図 1 の左側に図示のコントローラ回路 1 0 と、図 1 の右側に図示の電力駆動回路 2 0 とから構成され、各回路 1 0 , 2 0 の間は、電氣的に絶縁するために、フォトカプラ 3 1 , 3 2 を介して接続されている。

【手続補正 2】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0 0 5 0  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【0 0 5 0】

また、I P M 3 - 2 のエラー信号通信回路 1 6 A - 2 において、電流源 5 5 は電流値  $I_{B1}$  の直流電流を電流検出器 5 3 に出力するとともに、端子 T 3、ケーブル C A 2 及び端子 T 2 を介してエラー信号通信回路 1 6 A - 1 の電流検出器 4 4 , 4 6 に出力する。また、エラー信号発生回路 1 5 からのエラー信号 E C がローレベルであるとき、スイッチ 5 2 は接点 b 側に切り換えられる。一方、エラー信号 E C がハイレベルであるとき、スイッチ 5 2 は接点 a 側に切り換えられ、電流源 5 1 は電流値  $I_{B2}$  を有する直流電流を電流検出

器 5 3 に出力するとともに、端子 T 3、ケーブル C A 2 及び端子 T 2 を介してエラー信号通信回路 1 6 A - 1 の電流検出器 4 4 , 4 6 に出力する。電流検出器 5 3 は入力される直流電流値がしきい値  $I_{B12th}$  以上になったとき、通信エラー信号 F B 1 を出力し、エラー信号通信回路 1 6 A - 1 の電流検出器 4 4 は入力される直流電流値がしきい値  $I_{B12th}$  以上になったとき、通信エラー信号 F A 2 を出力する。さらに、電流検出器 4 6 は端子 T 2 に入力される直流電流値がしきい値  $I_{B1th}$  以下になったとき、通信エラー信号 F A 3 を出力する。すなわち、例えば、ケーブル C A 2 が断線したとき、端子 T 2 に入力される直流電流値は 0 になるので、電流検出器 4 6 は通信エラー信号 F A 3 を出力する。

【 手 続 補 正 3 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 図 面

【 補 正 対 象 項 目 名 】 図 1

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【図1】

実施の形態1

